

令和6年度 教育コミュニケーションコース 修士論文成果発表会

令和7年2月24日（月）

修士論文成果発表会が神戸まちづくり会館にて行われました。神戸ハーバーランドキャンパスから新長田キャンパスへの移転作業のため、両キャンパスが使用できず、今回は神戸まちづくり会館での成果発表会となりました。今回限り?の会場で、一言一言、一瞬一瞬を大切にされた発表が行われました。発表はテーマは以下の通りです。

○教師が学び合う校内研修に関する研究

ーモーリス・メルロ＝ポンティの身体論を手がかりにー

○柱体の体積の「実体化」が児童の「関係操作」に及ぼす影響

ー小学校6年生の算数の授業実践を通してー

○清末における江西省出身の留日学生についての研究

○教育現場における看護学生と看護教員の相互交流的な関係

ー省察的実践者としてエピソード記述で振り返るー

○小学校教員が挫折経験を乗り越える過程の探究

ーライフストーリーを描いたTEM図を手がかりにー

○分断社会における多文化教育

ー北アイルランドの統合教育と共有教育を事例にー

○民主主義を担う学校の道德教育に関する研究

ーシャントル・ムフの闘技民主主義の理論を手がかりにしてー

○博学連携の視点から問い直す水族館の存在意義に関する研究

ーみなとやま水族館が目指す環境教育を手がかりにー

○主体性の教育に関する批判的検討

ーM・フーコー「主体の解釈学講義（1981年～1982年）」からー

○授業場面における教師の代替不可能性に関する考察

ーメルロ＝ポンティの「現象的身体」を手がかりにしてー

○イエナプラン教育の理念と実践に関する研究

ー大日向小学校の教職員の語りに着目してー

○大学入試対策の心理学化

ー【過去→現在→未来】の一貫性を必須とする自己分析が大学入試対策の技術とされていく歴史的地層を『蛍雪時代』から探るー



修士論文についての報告や議論だけでなく、執筆・提出にいたるまでの過程や苦勞、研究を進めるうえで後輩たちへのアドバイスも含まれており、大変充実した時間となりました。

先輩方の歩まれた道筋、不安や喜びが結実した多様な姿形を示してもらえたことで、研究を進めていくうえでの勇気をもらえました。先輩方、お疲れ様でした。